

取引のあっせん

アキモク鉄工株式会社

自社の成り立ちを見つめ
オリジナル製品の開発へ
先人たちの偉業が道を照らす



設計・製造・据付の
一貫生産体制。
高い技術で世界に挑む

ターニングポイントは輸送機コンソ参加

能代市のアキモク鉄工株式会社は1980年に設立した製造メーカー。代表の花下智之さんにお話を伺った。

「弊社の事業は、ほとんどが請負です。事業を継続させるためには、自社製品を開発することが急務であると感じていました。弊社のルーツは1907年に設立された『秋田木材株式会社』です。まずは自社の歴史を紐解くことから始めようと思ったところ、幸いにも設立からの経緯が書物として残されていました。そこには顧客の需要増に対応するため、必要な電力を自社で賄うために発電事業を展開していたこと、戦時中に海軍の需要工場となり、ゼロ戦の部品製造を行っていたことが記されていたんです。地域に住む高齢の方の中にはゼロ戦のことを覚えている方もいました」。

ちょうどそのころ、秋田県と県内の民間企業が協力して秋田輸送機コンソーシアムが設立され、花下さんはすぐに参加を決意したという。

過去が照らした、明るい未来への道

秋田輸送機コンソーシアムを通じて能代のベンチャー企業と繋がり、ファインバブル産業と出合ったことで、自社製品「ハイパー・ウォッシャー」の開発に成功。航空機や車両などの塩分洗浄により、機体などの塩害腐食を防止する装置だ。陸上自衛隊の水陸両用車両用に導入されたほか、災害救難隊のヘリコプター洗浄などにも活用されるなど実績ができています。コロナの影響で想定よりも遅くなっているが、海外展開に向けても動きがある。

「活性化センターには、弊社の事業全般を支援してもらっています。最近では関東の企業を紹介していただき、部品製造の取引斡旋をしていただきました。知財や特許の部分などでも助けてもらっています」。

「ハイパー・ウォッシャー」は、洋上風力発電の分野でも需要がある可能性があり、風力発電の大手・ベスタス社と検討を行っている。かつて自社で発電事業を行っていたという事実を思えば、必然の流れかもしれない。



アキモク鉄工株式会社
代表取締役
花下 智之 Hanashita Tomoyuki
〒016-0122
能代市扇田字柑子畑 1-29
TEL:0185-58-3691
<http://www.akimoku-iw.jp/>

▶活用事例
取引のあっせん

県内のもづくり企業や取引拡大のため、首都圏および東北地区担当のアドバイザーによる発注案件の開拓や取引あっせんを通じてマッチング支援を行います。

[お問い合わせ]
取引振興課
TEL.018-860-5623



秋田輸送機コンソーシアムに参加することで開発に至った自社製品「ハイパー・ウォッシャー」。



鉄構工場の様子。溶接の作業が行われている。ここでは大きな橋梁の部品などが製造されている。



事務所では機械の設計を担当する社員も。社内は明るく、風通しの良い雰囲気だ。